

No.	分類	委員名	ご意見	対応(案)
1	指標	星野委員	戦略は県民が見てすつと頭に入らなければならない。指標の定義や目標値の説明をもっと丁寧に書き込むと良いのでは。	ご意見を踏まえ、全ての指標について「目標の根拠」を追記するとともに、一部指標については選定理由の記載を改めました。
2	指標	片岡委員	指標をたくさん設定していることをアピールしているようだが、全般的にこれらの指標が生物多様性保全にどのように貢献するのかが分かりにくい。例えば「自然共生サイト 8件」とあるが、8件達成したところで30by30をどれだけ増やせるのか、ネイチャーポジティブが達成されるのか見えにくい。希少野生動植物種の保護増殖箇所数であれば、全体の生息地面積に対する保護面積の割合を出すというのはどうか。	自然共生サイトの目標8件(2件/年)については、国がR5年度の認定件数を100件としていることを踏まえ設定したものであり、自然共生サイトの数を増やすことで生物多様性保全に関する機運醸成を期待しています。ただ、認定の候補は未定であり、その規模もまちまちであることが想定されるため、貢献度を定量的に評価することは難しいと考えます。なお、トラスト保全地の自然共生サイト認定申請を検討しており、認定に至ればヘクタール規模の面積増が期待されます。希少野生動植物種の保護増殖についてはその規模が種や保護増殖の主体により様々であること、また、全体の生息地面積も把握していないことから、指標の単位は「箇所」としたところです。目標値については、条例指定種22種のうち飼育・栽培が可能な10種類ごとに1か所以上ふやすことを目指して設定しました。
3	指標	金子委員	(第1回意見No.13関連)言いたかったことがあまり伝わっていない気がする。ニホンジカ、イノシシの個体数が指標となっているが、重要なのはどの程度森林が損傷を受けているのか、学術的な予測として、どの程度個体数を抑えればどの程度森林面積を回復できるのか。イノシシ個体数やニホンジカ個体数は指標として適切なのか。いま損傷されている面積や回復する面積を指標とすべきでは。これだけ見るとただ個体数を減らせばいいように見える。そもそも現状や数値目標に一頭単位の数値というのはあり得ないのではないかと思う。この数字だけ見ると、たくさんいるからただ減らせばいいという感じで、非常に素人っぽく感じる。その背景には、学術的な知見があると思うので、そのあたりに触れていただいた方が納得できるのではないかと思う。	ニホンジカによる農林業被害や自然植生への影響は一般的には生息密度に依存し、生息密度が高いほど著しい被害が発生するとされています。ニホンジカによる人工林での被害や天然林などの自然植生への影響を軽減し、生態系の保全と森林の公益的機能を維持していくためにはニホンジカの生息密度を一定の水準にまで抑制する必要があるため、個体数を指標としました。自然植生にあまり目立った影響が出ないニホンジカ生息密度は平均値3~5頭/km ² 以下とされています。ニホンジカ個体数を半減させる目標は国目標を踏まえたものですが、個体数を半減させることで、生息密度3~5頭/km ² 超となる面積割合は94%→52%になると推計しています(※ただし、面積は埼玉県第二種特定鳥獣管理計画の対象地域に限ります)。なお、イノシシによる林業被害は報告されていないこともあり、生息密度の考えを踏まえた個体数管理は行っていません。イノシシ個体数を半減させる目標は国の半減目標を踏まえたものです。
4	指標	米林委員長	(イノシシやニホンジカの)個体数管理はイコール密度管理。生息密度を個体数に戻しているのでは。一般の人に分かりやすく個体数にしたのだと思うが、個体数では意味が無いという金子委員の意見はもっともだと思う。	

No.	分類	委員名	ご意見	対応(案)
5	指標	片岡委員	「横断的・基盤的戦略① 健全な生態系確保」の主な取組のうち「特定外来生物」のみ指標が設定されていないことが気になる。	ご意見を踏まえ、特定外来生物対策に関する指標を設定しました。
6	指標	前田委員	(第1回意見No.16関連) 芝生化について、本文からは削除されたが、指標「身近な緑の創出の促進」の定義には残っている。これは削除漏れということか。国家戦略に併せて県戦略からも芝生化は削除すべき。	指標「身近な緑の創出面積」は本戦略の上位計画である埼玉県5か年計画や埼玉県環境基本計画にも設定された、令和8年度を目標年度とする指標です。そのため、その定義には芝生を含めることとさせていただきますが、運用に当たっては、在来樹木の植樹など他の緑化手法も積極的に推進していきます。
7	指標	平尾副委員長	「環境林整備」や「保護林や緑の回廊の設定」が言葉としては書き込まれているので、これらに関する指標が設定出来るかとい。「天然林に設置されているシカ柵の個数」といった指標もよいのでは。今からは難しいのであれば、どこにフォーカスして保護管理をするのかということを書き込むよう検討をお願いします。	環境林整備やシカ柵設置数等の新たな指標設定は困難でしたが、ご意見を踏まえ、以下のとおり修正しました。 イ 野生鳥獣の個体数管理による森林生態系への被害防止 「森林の獣害地について、獣害防止柵を設置するなどの対策を講じます。また、自然力の活用により整備コストを縮減した環境林整備の手法を確立・普及します。」
8	指標	牧野委員	指標「緑の保全面積」は12ha増加ということであるが、具体的な想定が無いということであるので、もっと多くても良いのでは。	指標「緑の保全面積」は本戦略の上位計画である埼玉県環境基本計画にも設定された、令和8年度を目標年度とする指標です。そのため、その目標値については原案のとおりとさせていただきます。
9	取組	前田委員	(第1回意見No.18関連) 30by30に関して、保護地域の情報は広く公開すべきという意見であり、必ずしも戦略に地図に入れ込む必要はない。「市町村の求めに応じて提示」との対応(案)だが、市町村だけに提示すれば良いものではない。ホームページで公開するとか方法があるのでは。森林整備面積についても私の考えと食い違っている。森林整備は間伐を行うのが一番メインで、その次が針葉樹と広葉樹の混合林化を目指すようなところ。間伐は本質的に生物多様性につながるとは思えない。針広混合林化であれば、人工林であっても多少は生物多様性の向上に繋がる部分があるかと思う。そう考えると、周りに二次林、広葉樹林が残っているところに近いところからやる方がより効果が上がるはず。そういう意味で、どこでやるかというのが大事なはず。それがただ森林の整備面積の数を稼げば良いとは私は思っていない。	30by30に関連する保護地域については県ホームページを通じて公開することを検討します。 針広混交林化についてはご意見の通り広葉樹林の近隣で行うことが効果が高いと考えますので、「特に、周囲に比較的広葉樹林が残っている奥地の人工林を中心に、森林整備により針広混交林化を進めます。」を追記しました。

No.	分類	委員名	ご意見	対応(案)
10	取組	平尾副委員長	「生態系エリア別戦略① 多面的機能を発揮する森林の豊かな環境を守り、育てる」の主な取組に「多様な森林づくりの推進」とあるが、『多様な』とはどのような意味か。人工林の記載しか無いように思えるが。生物多様性に資するのは天然林であり、天然林の保護管理について書き込んだ方がいいのでは。	「多様な」とは、主にスギ・ヒノキの人工林の針広混交林化や再造林による若返りなど地域に応じた森づくりのことを指しています。 また、ご意見を踏まえ、「生態系エリア別戦略① 多面的機能を発揮する森林の豊かな環境を守り、育てる」の「(3) 主な取組 ウ 森林生態系の保護の推進」に、「併せて、自然環境保全地域の適正な管理によっても、優れた天然林などの良好な自然環境の保全を推進します。」を追記しました。
11	取組	前田委員	(第1回意見No.19関連)SAITAMAリバーサポーターズの取組について、生態系確保の担保が取れるよう、戦略に何らかの追記をしてもらいたい。何らかの追記がないと賛同しかねる。	ご意見を踏まえ、当該取組に「SAITAMAリバーサポーターズを含めて、河川における多様な主体による健全な生態系の確保について方策を検討していきます。」を追記しました。
12	取組	前田委員	(第1回意見No.22関連)希少種保護区の設定について、「検討する」であると検討で終わってしまう。設置には様々な調整が必要であることは分かるが、「緑の保全面積」も面積で出ている。調整が必要であることは同じはず。知事が公約としてネイチャーポジティブを掲げているのであれば「設置する」とすべき。	ご意見を踏まえ、「保護区等の指定に努めます」と修正しました。
13	取組	牧野委員	「湿地生態系保全の推進」の項に「国内唯一のムジナモの生育地である～」との記載があるが、本当に「国内唯一」であるのか確認が必要。	ムジナモ生息地は埼玉(宝蔵寺沼)の他、奈良、石川にもあることから、ご意見No.14も踏まえ、「国内唯一のムジナモの生育地である宝蔵寺沼」→「重要湿地の一つであり、ムジナモの生育地である宝蔵寺沼」と修正しました。 (参考:中央大学HP) 2023年4月18日 牧野富太郎博士ゆかりの水草ムジナモ(絶滅危惧IA類)国内自生地を発見 https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/communication/press/2023/04/65642/
14	取組	金子委員	環境省の重要湿地が(県内には)複数あるため、それらを記載に盛り込んでもよいと思う。	ご意見を踏まえ、「3 生態系エリア別戦略③ 多様な水域が有機的に結びついた生態系ネットワークを形成する」の「(1)現状・課題」に重要湿地に関する記述を追加し、用語集に「重要湿地」を追加しました。また、「(3) 主な取組 イ 湿地生態系保全の推進」について「国内唯一のムジナモの生育地である宝蔵寺沼」→「重要湿地の一つであり、ムジナモの生育地である宝蔵寺沼」と修正しました。

No.	分類	委員名	ご意見	対応(案)
15	取組	牧野委員	戦略中に「トラスト運動」があまり出てこない。県が主導で、ボランティアの皆さんに色々と頑張ってもらってやっている大きな事業であるので、戦略中で大きく取り上げて、県もしっかりやっているという姿勢を示すことが大切だと感じる。	ご意見を踏まえ、「生態系エリア別戦略② 里地・里山の多様な生態系ネットワークを形成する」の「(3)主な取組 イ 緑の保全の推進」にトラスト保全地に関する記載およびコラムを追加しました。
16	本文	牧野委員	第1章の冒頭ページ(溶け込み5ページ)を「埼玉」らしくしてはどうか。埼玉に関する記述が無いと興味を引けない。例えば、野生絶滅や外来生物が何かするということがあって、埼玉県はこれだけの被害が出ていてどうにかしなければならない、だからこの戦略が必要になるのだとか。コラムとしての記載でも良いので身近な内容を書き込むと良い。	ご意見を踏まえ修正しました。
17	本文	江村委員	第1章の冒頭ページ(溶け込み5ページ)に水域生態系の図があるが埼玉とは関係ない。本文に河川名や地名を入れる等、身近な感じにするとよい。	
18	本文	金子委員	第1章の冒頭ページ(溶け込み5ページ)「生物多様性を守りたくなる」ような文章にして欲しい。埼玉でも生息状況調査などを行ってデータがあるはず、危機感を持っているはず。そういったことを前提に書いてはどうか。	
19	本文	平尾副委員長	21ページの森林の説明や22ページの山地の説明、18ページの植生の説明などで、「二次林」、「天然林」、「原生林」という言葉が使われているが、森林は基本的に「人工林」か「天然林」の2つ。用語の整理をお願いする。また、原生林が本当に存在するかも気になるので確認をお願いする。	「二次林」については、天然林の一種ということで書きぶりを修正しました。 「原生林」については、天然林の遷移の最終段階のものであるということで、原案のとおりとしています。なお、十文字峠周辺や雁坂峠周辺などのコメツガ林、甲武信ヶ岳や三宝山あたりのシラビソ・オオシラビソ林を原生林と認識していません。
20	本文	平尾副委員長	溶け込み版71ページ「国家戦略が掲げる課題と県で取り組むべき課題及び県戦略での施策展開に関するつながり」の図は資料1-2に差し替えるとよい。	ご意見のとおり、資料1-2に差し替えました。
21	各主体の役割	片岡委員	「第5章 各主体に求められる役割」のデザインを一考しては。また、どの役割がどの戦略(取組)に対応するのか模式図を書いてみるのもよい。	ご意見を踏まえ、各主体の連携・協働についてイメージ図を追加しました。
22	県の役割	前田委員	(第1回意見No.10関連)「(県が)事業を行う上での役割」とは、県が事業主体となる際に、土地の改変をした上で事業を進めていく場合の役割のこと。県が行う事業は少なくともネイチャーポジティブを踏まえて実施するとか書けるのでは。それを記載して欲しい。	ご意見を踏まえ、第5章の県に求められる役割として「県が主体で実施する事業においては生物多様性保全に配慮するとともに、物品等購入にあたってはグリーン購入を推進します。」「県有施設等の自然共生サイト登録に努めます。」を追記しました。
23	コラム	牧野委員	コラムとして「トロロの森」が取り上げられているが、「トラスト協会」も取り上げて欲しい。	ご意見を踏まえ、「トラスト協会」を含むコラムを追加しました。

No.	分類	委員名	ご意見	対応(案)
24	コラム	牧野委員	コラム11に「ナショナルトラスト」の定義が記載されている。主体は必ずしも「市民」だけではなく、任意団体や行政主導型などもあるので修正した方がよい。	ご意見を踏まえ、主体に「任意団体、法人や行政機関等」を追記しました。
25	その他	碓井委員	戦略が現場でどこまで有効であるのかについては疑問。「戦略」と聞いても県民は自分の身の回りのことを言っていると認識しにくい。ホテイアオイやホタルの保全について新聞記事として取り上げられているが生物多様性が守られているのか。アメリカザリガニ駆除＝殺すこと、について子供達にどう説明してよいか悩んでもいる。戦略の子供版が出来ると良いのかも。	ご意見を念頭に、より伝わりやすい普及・啓発策を模索しながら戦略を推進していきます。
26	その他	片岡委員	県コメ、市町村説明会の開催とあるが、説明を聞いて直ぐ出来るようになるのか。市町村のキーパーソンを呼んで、WGや意見交換会をする等するとよい。「連携・協力する」という感じが薄い。出来上がったあとに「説明」はいいのだが、県戦略を作る段階で当事者意識を持ってもらうために関わっていただく機会を設けるのも大事では。スケジュールが厳しいのは分かるが。	市町村に対しては継続的な説明・支援が必要であると考えています。戦略策定にあたっては県民コメントに併せた照会時にご意見を伺うとともに、戦略策定後には全体説明会開催や個別対応により、市町村への説明・支援を行っていきます。
27	その他	奥野委員	(戦略策定・推進にあたり)各主体と合意形成することは重要。文化資源課で市町村が策定するため、ワークショップを組んだり、先進事例の紹介、国から人を呼んできて話してもらうといった主導・支援をしている。それでも成果は少ない。単発でやるのではなく、継続支援が大事。	市町村に対しては継続的な説明・支援が必要であると考えています。戦略策定にあたっては県民コメントに併せた照会時にご意見を伺うとともに、戦略策定後には全体説明会開催や個別対応により、市町村への説明・支援を行っていきます。

<以下、閉会後にいただいた意見>

28	本文	米林委員長	【第3章】溶け込み版17ページ8行目「日本に生息する既知の野生生物の種数は約9,400種とされていますが、」とあるが、環境省HPによると『90,000種』では。再確認を。	環境省HPに合わせて「90,000種」と修正しました。
29	本文	米林委員長	【第3章】溶け込み版23ページ2～3行目「～など、森林生態系や生態系サービスに大きな影響を与えています」→「～など、森林生態系や生態系サービスを大きく劣化させています」に修正	ご意見のとおり修正しました。
30	本文	米林委員長	【第3章】溶け込み版23ページ「2 丘陵地～低地」の項に、生物多様性国家戦略の記載「また、近年では、太陽光発電施設の設置により失われた生態系の面積として、里地里山の環境が多いことが明らかになっている。」を追記。	ご意見を踏まえ、「太陽光発電の設置が生態系サービスに影響を及ぼすことが懸念されている」旨の記述を追加しました。
31	本文	米林委員長	【第3章】溶け込み版23ページ13～14行目「本県で記録されている野生動植物種は約18,000種ですが、多くの種は、低地から丘陵地帯にかけて広がる里地・里山的な環境に生息・生育しています」の根拠は何か。	ご意見を踏まえ、「里地・里山的な環境には多くの種が生息・生育している」との主旨の記載に改めました。
32	本文	米林委員長	【第3章】溶け込み版23ページ16ページ「谷戸」とあるが、比企丘陵は「谷津」地名が多いため、「谷津」とするのが適切では。	谷戸と谷津は同じ意味で、地域によって呼び方が異なるものであるため、ご意見を踏まえ、「谷津(谷戸)」と記載しました。

No.	分類	委員名	ご意見	対応(案)
33	本文	米林委員長	【第3章】溶け込み版23ページ33行目「～里山風景の顔を持ち」→「～田園風景の顔を持ち」に修正	ご意見のとおり修正しました。
34	本文	米林委員長	【第3章】溶け込み版24ページ15～17行目「アライグマやハクビシンの家屋侵入、(中略)、ムクドリやヒヨドリによるフン害など、野生鳥獣に関する様々な事例が発生しています」→「また、外来生物のアライグマやハクビシンの家屋侵入、(中略)、ムクドリによるフン害など、野生鳥獣との様々な軋轢が発生しています」に修正。	ご意見のとおり修正しました。
35	本文	米林委員長	【第3章】溶け込み版25ページ「Ⅴ 現行の県戦略の～」とあるが、「現行」とは今回策定する戦略のことであるため、要修正。	ご意見を踏まえ修正しました。
36	本文	米林委員長	【第3章】溶け込み版25ページ23行目「～の食害が懸念されます」→「～の食害が進んでいます」に修正。	ご意見のとおり修正しました。
37	本文	星野委員	【第1章】溶け込み版11ページ8行目・68ページ3行目「～であり、県の施策について取りまとめたものです」→「～であり、「目指す将来像」とそれを実現するための「主な取組」について取りまとめたもので」に修正	ご意見のとおり修正しました。
38	本文	星野委員	【第3章】溶け込み版27ページ12～13行目「～を踏まえ、より多くの県民が生物多様性の損失は身近な解決すべき課題であることを認識するとともに、その保全に向けた～」→「～を踏まえ、より多くの県民に生物多様性という言葉とその意味について理解促進を図るとともに、生物多様性の損失は身近に解決すべき課題であり、その保全に向けた～」に修正	ご意見のとおり修正しました。
39	本文	星野委員	【第3章】溶け込み版29ページ17～18行目「～などは保護地域に認定されるため、」→「～などは保護地域に認定されているため、」または「～に該当するため」に修正	ご意見のとおり修正しました。
40	本文	星野委員	【第4章】溶け込み版30ページ14～15行目「～、自然環境への配慮などが盛り込まれている施策も含めています」→「～、自然環境への配慮が盛り込まれています」に修正	ご意見のとおり修正しました。
41	本文	星野委員	【第4章】溶け込み版32ページ13ページ「また、農業の営みは、地域特有の景観や自然環境を形成し、」→「また、農業の営みは、地域特有の景観や環境を形成し、」に修正	ご意見のとおり修正しました。
42	コラム	星野委員	【第4章】溶け込み版36～37ページのコラム5およびコラム6:コラム6の前段の被害予防3原則はコラム5に書くべき内容である。また、コラム5の8行目に「外来生物の中には自分の意志でなく、」とあるが、そもそも「自分の意志で」侵入するような外来種はほぼいない。意図的・非意図的について記述するのであれば、その内容に訂正すべきと思われる。	ご意見を踏まえ修正しました。

No.	分類	委員名	ご意見	対応(案)
43	コラム	碓井委員	「鴻巣市の取組(コウノトリ)」をコラムで取り上げることに反対である。コウノトリ・トキという野生絶滅した外来種の野生復帰への取組は国が主導しているが、生物多様性という主題からは逸脱した話題作りであると考え。これを県戦略に含めれば、「●●がいるから良い環境だ」という市町村や公園管理者の安直で間違った思い込みに繋がる危険性を感じる。	コウノトリ・トキを指標とした地域づくりについては、「湿地生態系保全の推進」の項に、関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会に関する取組を既に記載していたところです。本県および鴻巣市は同協議会の委員として参加していることから、今回、コラムとして取り上げることとしました。
44	コラム	片岡委員	上尾丸山公園のネイチャーポジティブ事例をコラムとして掲載していただけないか。上尾丸山公園は都市公園でありながら、2019年のかいぼりを機に、これまで許容していた池での魚釣り(釣り魚の放流も)を全面禁止し、池を含む湿地や水辺の再生に市民と協働で取り組んでいる。かいぼり後の取り組みによって、園内では埋土種子からミズアオイ(県RDB・IA類)が再生、開園以来初となるカイツブリの営巣と繁殖成功が確認されるようになった。	県以外の取組紹介については、紙面の制約もあり、国・市町村・団体から各1事例ということで整理しています。ご提案のあった上尾丸山公園の事例については、例えば市町村説明会や県で運営している埼玉みどりのポータルサイトでの紹介など、他の方法で紹介いたします。